

関係各位

ジュニア・チャンピオンズリーグ実行委員会

ジュニア・チャンピオンズリーグ

【ジュニア・チャンピオンズリーグ大会趣旨】

ジュニア・チャンピオンズリーグは、日本プロボクシング協会(JPBA)並びに一般財団法人日本ボクシングコミッション(JBC)が10年にわたり培ったU-15大会のナレッジを活かした、プロによる全く新しいジュニア育成リーグである。

ボクシングの普及を目的とし、選手の育成(特に防御技術の向上)、選手層の拡大を図る。そして選手のみならず指導者も含めた競技関係者全体の意識の向上を目指す。また競技中は健康管理と選手指導に重点をおき、徹底した早期レフェリーストップと厳格な反則注意を行う。

【ジュニア・チャンピオンズリーグルール】

1. 採点方法

- ・全ての試合10ポイントマストシステムを採用。
- ・1ラウンド中に2度のダウン、もしくは1試合中2度のダウンでTKOとする(ただしU-18は3ノックダウン制を採用し、**1試合中に3度のダウンでTKO、1R2回のダウンは10-7とする**)
 - *原則として10-10はつけない。
 - *ダウン(スタンディングダウンも含む)があったラウンドは、原則的に10-8とする。
 - *スタンディングダウンはしっかりとしたクリーンヒットがあった場合に宣告されるが、U-9及びU-12に関しては、教育的配慮や危険防止の観点から早めにダウンをとる。
 - *レフェリーが減点した場合、ジャッジは必ず減点する。
 - *スーパーバイザーが笛を鳴らした場合、劣勢の選手はTKO負けとなる。

2. 反則行為

- ・反則の注意を行う場合、レフェリーは「ストップ」をかけ、スーパーバイザー及び選手に分かるようにジェスチャーや言葉で示す。
- ・悪質な反則行為に対しては、レフェリーは即座に警告又は失格を宣告する。

主な反則行為

- *ストップ後・ゴング後の加撃
- *ベルトライン以下・背面・後頭部への加撃
- *ナックルパート以外の部位による加撃(ヘッドバッティング・オープンブロー・エルボーブロー・サミングなど)
- *レスリング行為
- *相手を押すこと
- *ラウンド中の攻撃的・挑発的な発言
- *レフェリーの指示に従わないこと

3. グローブ

- ・U-9：10 オンス
- ・U-12：37.5 kg級以下は 10 オンス、40 kg級以上は 12 オンス
- ・U-15：52.5 kg級以下は 12 オンス、55 kg級以上は 14 オンス
- ・U-18：S フライ級以下は 12 オンス、バンタム級以上は 14 オンス

4. 試合時間

- ・U-9：1分×2ラウンド、インターバル1分
- ・U-12：1分×3ラウンド、インターバル1分
- ・U-15：1.5分×3ラウンド、インターバル1分
- ・U-18：2分×3ラウンド、インターバル1分

5. バンデージ

- ・U-15 及び U-18 は、下記アマチュア試合用バンデージのみ使用可能とする。
- ・U-9 及び U-12 は、下記アマチュア試合用バンデージの他、ナックルガード(拳サポーターのこと、メーカーは特に指定しない)の使用を許可する。
 - * ウイニング社製日連検定品 VL-Y(ユース用)を使用すること。
 - 但し、拳が大きく VL-Y(ユース用)では不適切と思われる場合は、VL-H(高校生・大学生・社会人用)も準備し、検診・計量後、大会審判長に申し出て判断を仰ぐこと。また、VL-H(高校生・大学生・社会人用)を使用することになりそうな場合は、ジュニア・チャンピオンズリーグ実行委員に最終的に確認・相談すること。

6. マウスピース

- ・必ず2個用意する。
 - * 口内出血が分かりにくい為、赤系統(赤・ピンク・オレンジなど)ではなく白か透明が望ましい。

7. 服装など

- ・ヘッドギアを着用する。
 - * 女子は、ネットもしくはスイミングキャップを着用してからヘッドギアを装着する。
- ・袖のない上着(ランニングまたはノースリーブ)の上に、胸部保護パッドを着用する。
 - * 上着の裾はトランクスの中に入れ込む(へそ出しになるような短い上着は禁止とする)。
 - * U-18 男子に関しては、胸部保護パッドは着用しない。
 - * U-15・U-18 女子は、胸部保護パッドとチェストガードの両方の着用を義務とする。
- ・トランクスの下に、カッププロテクターを装着する。
 - * U-9・U-12(男女共)に関しては、カッププロテクターは着用しなくてよい。
 - * U-15・U-18 女子の下腹部保護用具は女性用ローブローガードが望ましいが、男子同様のカッププロテクターも可能とする。
 - * トランクス、ランニングのジム名、広告など自由とする。都道府県名の表示も可
 - * トランクスのベルトラインがはっきりと色別できるよう、ベルトラインの色は上着及びトランクス本体の色と別にする。またはトランクスとベルトラインが同色の場合はランニングの色を別にする

※計量時に試合着を計量係員に提示すること。服装などに違反がある者は失格とする。

服装などに関する禁止項目

- ・股のない、極端に長いスリットの入ったトランクス
- ・上着、トランクス、シューズへの過度の装飾
- ・ひざ下より上部までくる靴下
- ・U15 以下の選手の染髪
- ・長髪は男女ともにスイムキャップで束ねれば可
- ・試合中のコンタクトレンズの着用
- ・バリカンでラインを入れる等、過度な頭髪の演出・装飾
- ・刺青



←※トランクスはベルトラインが識別できる物か同色の場合はトランクスとランニングの色を分ける事

8. セCOND

- ・セCONDは、JBC ライセンスカードを首からかけ、長ズボンのスポーツジャージ・スポーツシューズ着用が義務とされている(素足・サンダル・スリッパ・ジーパンは不可)
- ・セCONDは選手1名につき、3名まで可とする(リングロープ内に入れるのは1名のみ)
- ・JBC 発行のスタッフライセンス所持者であれば、出場選手の親も可とする(ただし、リングの中には入れないこととする)。
- ・プロボクサーライセンス所持者も可とする。(チーフセCOND可)
- ・椅子に座った状態で、試合中に指示を出すことが可(暴言や批判する言葉は絶対に行わない)。
- ・セCONDが規則に違反した場合は注意や警告を受け、悪質な場合は失格となるが、その為に選手も同様に注意や警告を受け、失格となることもある。

セCONDの主な反則行為

- * 相手選手・審判員に対する暴言
- * 許されていない道具・液体・薬品の使用(ワセリンは使用可)
- * リングを叩くこと

9. 担当コーチ

- ・担当コーチは常に選手の体重と体調を管理すること。
- ・試合の際は選手に同行し、セCONDに就けない場合も常に選手の目の届くところにいること。
- ・事情により同行できない場合は、信頼できる代理人に同行を依頼すること。

※責任者の同行のない選手は失格とする。

10. 健康診断書

- ・申し込み時の健康診断書は、受診した日より1年間は有効とする。
 - * ただし、その間、体調に変化を感じた場合は再度受診し、ジュニア・チャンピオンズリーグ実行委員会に報告すること。
 - * 登録時(初出場申込時)のみ、頭部 CT 受診が義務付けられる。
 - * 頭部 CT スキャン・胸部 X 線・心電図については、画像の提出は不要とする。また、過去に受診し検査結果を実行委員会に提出済みの場合は、特別な理由を除き再検査の必要はない。
 - * 頭部 CT スキャン検査においてくも膜のう胞が見つかった場合は、委員会指定のドクターが出場の可否を判断する。
- * アンダージュニアの健康診断も可とする

階級とグローブ

U9 (小学校1年生から3年生まで)		
階級名	体重	グローブ
22.5 キロ級	20.0 ㎏超過 22.5 ㎏まで	10 オンス
25.0 キロ級	22.5 ㎏超過 25.0 ㎏まで	
27.5 キロ級	25.0 ㎏超過 27.5 ㎏まで	
30.0 キロ級	27.5 ㎏超過 30.0 ㎏まで	
32.5 キロ級	30.0 ㎏超過 32.5 ㎏まで	

U15 (中学校1年生から3年生まで)		
階級名	体重	グローブ
32.5 キロ級	30.0 ㎏超過 32.5 ㎏まで	12 オンス
35.0 キロ級	32.5 ㎏超過 35.0 ㎏まで	
37.5 キロ級	35.0 ㎏超過 37.5 ㎏まで	
40.0 キロ級	37.5 ㎏超過 40.0 ㎏まで	
42.5 キロ級	40.0 ㎏超過 42.5 ㎏まで	
45.0 キロ級	42.5 ㎏超過 45.0 ㎏まで	
47.5 キロ級	45.0 ㎏超過 47.5 ㎏まで	14 オンス
50.0 キロ級	47.5 ㎏超過 50.0 ㎏まで	
52.5 キロ級	50.0 ㎏超過 52.5 ㎏まで	
55.0 キロ級	52.5 ㎏超過 55.0 ㎏まで	
57.5 キロ級	55.0 ㎏超過 57.5 ㎏まで	
60.0 キロ級	57.5 ㎏超過 60.0 ㎏まで	
63.0 キロ級	60.0 ㎏超過 63.0 ㎏まで	
66.0 キロ級	63.0 ㎏超過 66.0 ㎏まで	14 オンス
70.0 キロ級	66.0 ㎏超過 70.0 ㎏まで	

U12 (小学校4年生から6年生まで)		
階級名	体重	グローブ
27.5 キロ級	25.0 ㎏超過 27.5 ㎏まで	10 オンス
30.0 キロ級	27.5 ㎏超過 30.0 ㎏まで	
32.5 キロ級	30.0 ㎏超過 32.5 ㎏まで	
35.0 キロ級	32.5 ㎏超過 35.0 ㎏まで	
37.5 キロ級	35.0 ㎏超過 37.5 ㎏まで	
40.0 キロ級	37.5 ㎏超過 40.0 ㎏まで	12 オンス
42.5 キロ級	40.0 ㎏超過 42.5 ㎏まで	
45.0 キロ級	42.5 ㎏超過 45.0 ㎏まで	
47.5 キロ級	45.0 ㎏超過 47.5 ㎏まで	
50.0 キロ級	47.5 ㎏超過 50.0 ㎏まで	
52.5 キロ級	50.0 ㎏超過 52.5 ㎏まで	
55.0 キロ級	52.5 ㎏超過 55.0 ㎏まで	

U18 (16歳から18歳まで)		
階級名	体重	グローブ
アトム級	46.2 ㎏まで	12 オンス
ミニマム級	46.2 ㎏超過 47.6 ㎏まで	
L.フライ級	47.6 ㎏超過 48.9 ㎏まで	
フライ級	48.9 ㎏超過 50.8 ㎏まで	
S.フライ級	50.8 ㎏超過 52.1 ㎏まで	14 オンス
バンタム級	52.1 ㎏超過 53.5 ㎏まで	
S.バンタム級	53.5 ㎏超過 55.3 ㎏まで	
フェザー級	55.3 ㎏超過 57.1 ㎏まで	
S.フェザー級	57.1 ㎏超過 58.9 ㎏まで	
ライト級	58.9 ㎏超過 61.2 ㎏まで	
S.ライト級	61.2 ㎏超過 63.5 ㎏まで	
ウエルター超	63.5 ㎏超過 66.6kg	
S.ウエルター級	66.6kg 超過 69.8kg	
ミドル級超	69,8kg 超過 72.5kg	

ジュニア・チャンピオンズリーグ出場選手担当コーチ及び保護者の方へ

※大会要項と共に必ずご確認の上、大会参加承諾書へのご記入をお願い致します

【健康管理上の注意点】

(1)減量について

ジュニア・チャンピオンズリーグ大会出場選手の体は成長段階にありますので、選手の今後の発育を考え、減量を行わないことを強く推奨します。特に小学生の減量は禁止とします。計量失格の場合は、原則としてその試合は中止となります。担当コーチは選手の適正体重を把握し、減量の必要のない階級で選手を登録させてください。選手の成長により、登録した階級への出場が困難な場合は、減量をさせずに、ジュニア・チャンピオンズリーグ実行委員会へご連絡ください。

(2)食事について

試合前だからといって、急に食事内容を変えることは体調を崩すことにつながります。サプリメントなどに頼らず、一般的な食事をとるように心がけてください。担当コーチは、選手が計量後に過度の飲食をしないよう、責任を持って管理してください。

(3)練習中の注意について

特に夏場の練習では、熱中症に備えて水分を十分にとり、心拍数が160を超えるような練習や、野外での長時間の練習は行わないでください。

(4)実戦練習(スパーリング等)について

選手の体は成長段階にありますので、頭部に衝撃を与えるスパーリング等の実戦練習は、極力避けてください。スパーリングを行う際は、特に細心の注意が必要です。大会の1か月前からのスパーリングは1週間に1日から2日までとし、1日につきU-12は1分×2ラウンド、U-15は1.5分×2ラウンドまでとしてください。連日のスパーリングは避けてください。マスポクシングについても、防具を必ず使用してください。U-9の実戦練習には十分留意してください。特に連日の実戦練習は厳禁です。

※バッティングや、ストップ後の加撃が散見されますので、特に注意して指導をお願いします。反則に対しては厳しく減点し、悪質なものは即失格とする場合もあります。

(5)眼科検診(眼底検査)

ボクシングに限らず、コンタクトスポーツでは目のケガが起こりやすいので、ジュニア・チャンピオンズリーグ大会出場選手(U-9・U-12は除く)には、3年に1度の眼底検査を推奨します。

(6)他ボクシング大会への出場

本大会においてKO及びTKO負けとなった者は、大会後4週間以内に行われるボクシング大会並びに類似の格闘技大会への参加は禁止とします。

【用具について】

※ジュニア・チャンピオンズリーグ大会要項、服装についての項目を必ずご確認ください。

*大会主催者が用意するもの

グローブ、ヘッドギア、胸部保護パッド、カッププロテクター

*各自で用意するもの

マウスピース2個、袖のない上着(ランニングまたはノースリーブ)、トランクス、
カッププロテクター(Mサイズ以上を使用する場合)、シューズ、バンデージ

(女子のみ)チェストガード、ネットもしくはスイミングキャップ、ローブローガード

※ローブローガードについては男子用のカッププロテクターも可としているので、その場合は不要(主催者が貸し出します)。

【マナー】

(1)ノーガードなどで対戦相手を挑発する選手、レフェリーに対し抗議をする選手が散見されますので、担当コーチは試合前後の握手、審判員や観客席への挨拶など、選手及びセコンドの試合中のマナーを徹底して指導してください。

(2)観客席からの過激な声援、相手選手に対するヤジは控えてください。

(3)レフェリーの判断や試合結果に関しては、異議を申し立てないでください。

(4)セコンドについても、刺青、サンダル、金属類などの服装の乱れも目立ちますので、ジムでの徹底指導をお願いします。